

小説『サラバ!』にあらわれた登場人物のあだ名の付け方

大野木 裕明

仁愛大学人間生活学部

A study in how to give nicknames to the characters in “Goodbye”

Hiroaki OHNOGI

Faculty of Human Life, Jin-ai University

あだ名やニックネームが付く根拠・理由すなわち呼称の命名方略はさまざまであり、これまでに少なくとも12種類あることがわかっている(大野木, 2015)。本研究の目的は、(1) 小説『サラバ!』にあらわれた登場人物のあだ名やニックネームがこの12分類のカテゴリーで説明できるか否か、(2) 心理学的なパーソナリティを記述する用例としてこれまでに見出された「パーソナリティの2面性(坊っちゃん)」「エピソードごとの持続的な人格攻撃(徒然草)」以外の新たなあだ名の特徴的な使用例が見つかるかどうかであった。結果であるが、(1) この小説には登場人物4名に対し8件のあだ名と5種類の命名方略が使われていたが、それらは12分類の内のいずれかのカテゴリーで説明可能であった。(2) あだ名「ご神木しんぼく」に関して、小説の最初では「分類5:身体的特徴の見立て」に、それが後半では新たに「分類11:性格的特徴の見立て」という別の命名方略(理由・根拠)に変化して使われていた。この同一のあだ名がストーリーの途中で分類5から分類11へと変化して用いられたことは、当人の人間的成長や周囲からの対人認知が変化した証拠としてあだ名が使われたケース(人間的成長)であると考察した。

キーワード: あだ名 ニックネーム 呼称 西加奈子 『サラバ!』

問題と目的

あだ名やニックネームのような呼称は周囲から見たパーソナリティのステレオタイプ(紋切り型)的認知の表現法であり、あだ名が付くということは当人が周囲からそのように見られていることをあらわしている。その人が<いかにもそれらしい>と見なされていれば、そのあだ名は定着するし、<あの人にはそぐわない、違うよね>と見なされればそのあだ名は時間と共に自然に廃れていく。あだ名が付くという現象は当人の承諾の有無とは無関係に発生する性質を持っている。この点が姓名や自称とは異なる。あだ名やニックネームのような呼称は、周囲からの対人認知の目印(マーカー)なのであり、心理的距離(金子, 1991)や心理的間合い(大野木, 2005)の表現の1つにもなっている。あだ名とあだ名の付いた理由・根拠がわかれば、その人物が周囲からどう見られているかというこ

とに関するパーソナリティ心理学や社会心理学のテーマとして位置づけることができる。

あだ名やニックネームが付く根拠・理由(以下、命名方略と呼ぶ)を把握するにはどんな方法があるだろうか。大きくは2つのアプローチがあるだろう。1つ目のアプローチは実態調査を行うことによって市井に流布するあだ名やニックネームと命名方略の収集・分類をすることである。もう1つのアプローチは文学作品や口承文芸(昔話など)あるいは歴史書や新聞記事などをテキストとして内容分析を行うことである。この1つ目の実態調査的アプローチに関しては、学校教員・知人・友人に関するあだ名の調査結果を報告してきた(大野木, 2000)。2つ目のテキスト分析のアプローチでは、『坊っちゃん』(大野木, 2002/2003)、『竹取物語』『徒然草』(大野木, 1999)、『よいこ』(大野木, 2001)などを対象とした分析を報告してきた。あ

る程度の成果が蓄積したのでこれらを分類整理したのが表1(大野木, 2015a)である。表1の一部を説明すると、分類1～分類3は名字(姓)や名前の変形による愛称や蔑称であり、あだ名というよりもニックネームといった色彩の強い呼称群である。分類4は「身体的特徴の指摘」であるが、例えば「はな(鼻)」と

いうあだ名は身体の鼻の部位に特徴があることから来るものであるという。分類5の「身体的特徴の見立て」は分類4の指摘のような部位の指摘ではなく、その部位を似ている何かに見立てたあだ名である。例えば「ザビエル」は、歴史の教科書に掲載されている宣教師のフランシスコ・ザビエルに髪型や容貌が似ていること

表1 あだ名・ニックネームに関する命名方略(大野木, 2015より事例を抜粋)

あだ名	対象人物および根拠・理由に関する例
分類1: 姓(名字)の変形	
リンダ	姓(名字)が林田なので[音読]
テラ	寺田という姓(名字)の一部[一部省略]
たけちゃん	竹田という姓(名字)に「ちゃん」を付加[一部省略+語頭・語尾付加]
きんきん	金牧という姓(名字)の一部である「金」を反復[一部省略+反復]
分類2: 名前の変形	
いっかん	一寛(かずひろ)を音読み[音読]
やすべえ	「やすこ」に「べえ」を付加[一部省略+語頭・語尾付加]
ランラン	名前の蘭子(らんこ)の一部である「ラン」を反復[一部省略+反復]
分類3: 分類3: 姓(名字)と名前の変形	
タケチカ	竹下ちかの「下」を省略[一部省略]
ウラビデオ	うら・ひでおの「ひでお」を「ビデオ」に変形[語呂合わせ]
分類4: 身体的特徴の指摘	
はな	大きくモリモリした鼻[部位の指摘]
モーミン	モミアゲのもじり[部位の指摘+語頭・語尾付加]
分類5: 身体的特徴の見立て	
ザビエル	キリスト教の宣教師フランシスコ・ザビエルのような容姿[部位の見立て]
カバ女	顔がカバっぽい女性[部位の見立て+語頭・語尾付加]
分類6: 衣服などの装いの特徴の指摘	
ポマード	整髪料がきつい[装いの指摘]
角べえ	頭髪がいつも角刈り。角刈りに「~べえ」が付加
分類7: 衣服などの装いの特徴の見立て	
クレちゃん	髪が黒くおっぱいで原色系の服、クレオパトラ似[装いの見立て]
ごくさん	パンチパーマ、色メガネで極道ふう[装いの見立て+語頭・語尾付加]
分類8: 行動特徴・エピソードの指摘	
ヘモグロビン	「~君、この酸素運ぶのは何や」「わかりません」(答えていないのに)「そうやな、ヘモグロビンやね」となり、周囲が爆笑のエピソードから[その人物のエピソードの指摘]
モルモル	授業でmol濃度を繰り返す言う[行動特徴の指摘]
分類9: 行動特徴・エピソードの見立て	
ガス	口がコーヒー臭い[行動特徴の見立て]
分類10: 性格的特徴の指摘	
おごごり	粋(いき)がっている人で、「いきがり」が変形して「おごごり」に
分類11: 性格的特徴の見立て	
サンダー	怒るとめっちゃ怖い、雷thunderみたい。
分類12: 上記で複合的なもの	
ほそぶり	細川という姓(名字)で容姿がプリティ pritty (分類1+分類5)

から来ているという。

大野木 (2015a) では、これまでの一連の諸研究を次の2点にわたって報告した。これはのちに述べる本研究の主な2つの目的(以下の目的1と目的2)と密接に関わるので、ここで説明を加える。

本研究の目的1に関連するこれまでの知見: あだ名のような呼称の命名方略はさまざまであり、その種類は少なくとも表1に示すように12通りある。

本研究の目的2に関連するこれまでの知見: 主として先の第2のアプローチで見出された特徴ある用いられ方。パーソナリティあるいは対人認知の変化を説明する用例は少なくとも2ケースが見出されている。表2に示す。1つは夏目漱石の小説『坊ちゃん』の出現例のように、登場人物の主人公「おれ」が四国松山の職場の同僚(赤シャツ、野だいこ)から陰で「世間知らずの坊っちゃん」と蔑称で呼ばれ、同時に東京の自宅では住み込み女中の清きよからご主人の子息の「坊っちゃん」と敬称で呼ばれるという、パーソナリティの異なる2面性を表現したあだ名や呼称の用例である。もう1つは時系列的にみて同一人物のあだ名がエピソードごとに変化したケース、古典『徒然草』の第45段「堀池の僧正」にあらわれた用法である。次のような話である。— 藤原の公世の兄弟に良覚僧正という、怒りっぽい人がいた。僧坊のそばに大きな榎の木があったので「榎木の僧正」と呼ばれていた。これが気に入らないとしてその木を切ってしまったら木の根が残ったので、今度は人々は「切りくいの僧正」と呼んだ。さらにその切り株を掘り捨てたら、その跡が大きな堀になったので、人々は「堀池の僧正」と呼んだ。— これには「単なる愛称だったが、人々も意地悪に

なる」(市古・小田切編『徒然草(上)』1986, p.134)という解説が付いている。怒りっぽい良覚僧正という人物の怒りっぽい行動・エピソードに周囲の人たちが次々にあだ名を使って怒りっぽさを揶揄・嘲笑した話である。

しかしながら、この表1の分類リストはまだ完成途中であり、12通りの分類カテゴリーの修正や新たなカテゴリーの追加がなされる余地を残している。また、表2の『坊ちゃん』『徒然草』の登場人物のように、同一人物に対して愛称と蔑称の相異なるあだ名を付けられたり(パーソナリティの2面性)、同じ人たちから次々と愛称や蔑称のあだ名を付けられたりといった用法(エピソードごとの持続的な人格攻撃)以外にも、第3の新たな使用法のあだ名が存在するかも知れない。

本研究は、これらの2点について、先の2つめのアプローチであるテキスト分析の方法によって新たな追補的な研究を行うものである。テキストは西加奈子の小説『サラバ!』であるが、この作品を分析の対象としたのは、多くのあだ名とその理由が明確に記載されていて内容分析が比較的容易であり、この種の先行研究がないからである。また、先の夏目漱石『坊ちゃん』で用いたのと同じ分析作業を行うことが可能だからである。主な目的は次の2つである。

目的1: 小説『サラバ!』に出現するあだ名の事例を抽出して、上記12通りの分類カテゴリーに関する補足・洗練化を行うこと。

目的2: 同書に出現するあだ名について、パーソナリティに関する「坊っちゃん」「堀池の僧正」以外の第3番目の使用例があるか否かを調べること。

表2 対人関係場面のパーソナリティに関するあだ名の用いられ方

当該人物(作品)	あだ名	イメージ	付けた人	対人的機能	分類番号
おれ(坊ちゃん)	坊っちゃん	ネガティブ	職場の同僚	蔑称、嘲笑	分類11
	坊っちゃん	ポジティブ	住み込みの下女	敬称	分類12
堀池の僧正(徒然草)	榎木の僧正	ポジティブ(?)	周囲の人たち	愛称(?)	分類8
	切り杭の僧正	ネガティブ	周囲の人たち	蔑称、嘲笑	分類8+10
	堀池の僧正	ネガティブ	周囲の人たち	蔑称、嘲笑	分類8+10

注。「?」は原資料からの判断が困難なもの

なお、分析結果の報告に先立って、ここで『サラバ!』を簡潔に解説しておく。文学界の直木賞受賞作である小説『サラバ!』(西 加奈子著, 2014年11月刊)には、あだ名や呼称及びその根拠・理由に関わる明確な記述が多く出てくる。この作品の主人公である青年の姓(名字)は^{あくつ}坏, 名前は^{あゆむ}歩といい、この小説は歩から見た一人称の語りで進んでいく。歩には姉(貴子)、父、母が居るが、事情があって、父と母の夫婦関係、母と姉の親子関係は良くない。自分(歩)と母の親子関係、自分と姉の姉弟関係も良好とはいえない。母や姉と自分との間の心理的距離・間合いが遠い。このことは、幼少期から始まる物語の進行に伴って、次第に明らかになっていく。主人公(歩)は姉のこと、母や父といった家族のこと、出会った人たちのことを、彼等についての人物評価と共に語っていくのであるが、その記述には登場人物のあだ名やニックネームが人物評価の表現手段あるいは周囲との対人関係の悪さの証拠として用いられていく。あだ名やニックネームのような呼称は、周囲からのステレオタイプ(紋切り型)的な対人認知の産物にすぎないのであるが、当人が周囲からどのような人物にみられているかについての目印(マーカー)として有効に使われている。

方法

対象は、小説『サラバ!』である。少年期から青年期にかけての対人関係が、呼称とくにあだ名・ニックネームを用いることにより巧妙に表現されている。また、命名の理由も記されている。分析作業は、あだ名・ニックネームが記された箇所を抽出して、それを分類1~分類12のカテゴリー(表1)と照合することである。

なお、ここであだ名、ニックネーム及び呼称の定義確認をしておく。

呼称とは、「名づけて呼ぶこと、また、その名」の事である(『日本国語大事典 第二版』, 小学館)。人が人を呼ぶ時には名字や名前、あだ名、ニックネーム、あるいは「あなた」「お前」のような指示代名詞を用いる。このような呼び名を呼称という。

あだ名とニックネームの区別は必ずしも明確ではない。いくつかの辞書には次のような説明がある。

『広辞苑(第六版)』(岩波書店): (1)「あだ名」:(アダ)は他・異の意)その人の特徴などによって実名のほかにつけた名。あざけりの意味や愛称としてつける。異名。ニックネーム。(2)「ニックネーム」:あだ名。愛称。

『日本語大辞典』(講談社): (1)「あだ名」:本名以外に他人からつけられる呼び名。愛称あるいは悪意や中傷の意味をもつものなど多種。ニックネーム。(2)「ニックネーム」:①あだ名, ②愛称。親しいよび名。用例/ロバートのニックネームはボブ。

『角川国語大辞典』(角川書店): (1)「あだ名」:人の顔かたちや癖などによって、本名のほかに付けた名。悪口の意味と、親しみの気持ちでいうときがある。(2)「ニックネーム」:本名とは別にその人の性格や容姿などの特徴によってつける愛称。あだ名。

このようにならかなり類似した定義付けになっている。次に、ニックネームの定義を見ると、『小学館ランダムハウス英和大辞典』(小学館)では次のように説明されている。①あだ名, 異名, 通り名, ニックネーム:(以下文例の引用は略, Whizzer やり手など), ②略称, 愛称, 呼び名:(以下文例の引用は略, Christian name を短縮または変形したもので James → Jim など, ほかに Slim おやせさん, Fats デブ, Shorty チビなど)。

このように、あだ名とニックネームの区別はそれほど明確ではない。Christian name を短縮するなどの場合には、語のニュアンス的に両者は必ずしも同じではないかもしれないが、われわれが現在の社会生活で使っている分には、両者はほぼ共通部分が多いとされている。そこで、これらを踏まえてテキストの内容分析、すなわちあだ名・ニックネームを中心にしてその用例の抽出作業を行う。「ママ」「お姉ちゃん」などの呼び方があらかず心理的距離や間合いについては別稿(大野木, 2015b)で述べており、本稿では扱わない。

結果と考察

1. 登場人物のあだ名の概観

目的1についてのあだ名と命名方略を列挙した。目的2に関しては姉に対するいろいろなあだ名のリストと、あだ名「ご神木」に関する新たな使用法が見出

された。

概観すると、あだ名が使われていたのは、登場人物の姉（貴子）に対する「ご神木」「ライアーフォックス（嘘つき狐）」「ぶす」「ガリガリ」「ソー・ハッピー」、管理人に対する「ドラえもん」、姉の夫アイザックに対する「イサク」、学級の玉城さんに対する「幽霊」で、あだ名の該当者は4名、あだ名は8件であった。表3には、主人公の姉（貴子）に対して周囲から付けられたあだ名がまとめられている。表4には姉以外にも付けられたあだ名を記した。表3と表4を区別する特段の理由はないが、姉に対するあだ名が多いので別に示した。

2. 目的1

以下は、目的1について表3と表4を分類カテゴリー別にまとめ直して述べていく。「分類2：名前の変形」は、姉の夫であるアイザックに対して付けたあだ名「イサク」（表4）であった。アイザックの名前の一部を略してイサクと呼んでいた。あだ名というよりも愛称としての呼び名、ニックネームのニュアンスが強い。

「分類4：身体的特徴の指摘」に該当するあだ名は、姉に対する「ぶす」「ガリガリ」（いずれも表3）であった。「ぶす」は外見的にみて容貌がきれいではないことの指摘である。「ガリガリ」は身体がやせていることの指摘である。いずれも蔑称である。

「分類5：身体的特徴の見立て」に該当するあだ名は3つあった。姉に対する「ご神木（注。小説の前半部に出現するあだ名である）」（表3）、管理人に対する「ドラえもん」（表4）、学級の女子生徒の玉城さんに対する「幽霊」（表4）である。「ご神木」（表3）には多くの説明が記されている。表3に整理した記述表現の一部から判断できるように、姉のごつごつとした筋っぱい体型がご神木に似ているとして、その身体的特徴をあだ名として「ご神木」にしていた。「ドラえもん」（表4）はエジプトのカイロの居住宅の管理人に対して付けたあだ名であった。容貌や体型がマンガのキャラクター「ドラえもん」に似ていることからきている。「幽霊」（表4）は、玉城さんという同じくカイロの日本人学校の同級生の女子で、その風貌が幽霊に似ているからであった。

「分類8：行動特徴・エピソードの指摘」は、姉に対するあだ名「ソー・ハッピー」（表3）であった。これは、自己紹介で「ソーハッピー」と言い、それが場にそぐわないエピソードだったからそういう人物だとして付けられたあだ名である。

「分類11：性格的特徴の見立て」には、「ライアーフォックス（嘘つき狐）」と「ご神木（注。小説の後半に出てくる別の意味をあらわすあだ名）」があった。「ライアーフォックス（嘘つき狐）」（表3）は性格が嘘をつく狐に似ていることから狐に見立てたあだ名である。「ご神木」（表3）も性格がご神木に似ていて見立てたものであるが、これには少し説明を要する。本文中の該当箇所は次のようである。

— 姉はまっすぐ、立っていた。姉は強い木のような。神様をはらんだ、美しい、木のような。つまり、姉は「ご神木」だった。世界で一番美しい、動ける「ご神木」だった。（下巻、p.353）—

ここまでを再掲して簡潔に一覧すると、次のようになる。

姉（貴子）： ご神木（分類5、分類11）
ライアーフォックス（分類11）
ぶす（分類4）
ガリガリ（分類4）
ソー・ハッピー（分類8）

アイザック：イサク（分類2）

管理人：ドラえもん（分類5）

玉城真里菜：幽霊（分類5）

以上のあだ名はすべて分類1から分類12までのカテゴリーに含まれていた。したがって、表1の修正や追加の必要性は認められなかった。

3. 目的2

表2で述べたように、夏目漱石『坊ちゃん』では、「おれ」に対して職場の同僚からはネガティブな蔑称「坊ちゃん」、家の下女からは主人の子息なので大切な人でポジティブな敬称の「坊っちゃん」が使われていた。呼称の「坊っちゃん」は、周囲に居る異なる人物から異なる対人認知を受けているというパーソナリティの2面性を持つ証拠として使われていた。吉田兼好『徒然草』の「堀池の僧正」は、あだ名に立腹してその原

表3 姉に付けられたあだ名

あだ名・ニックネーム命名方略 (理由・根拠)	
ご神木 (小説の前半部で) / 「分類5: 身体的特徴の見立て」	<p>(1) 輪郭は、母の可憐なものではなく、父のたくましいそれを引き継いだ。唯一ふたりの長所を継いだのは身長だったが、骨が父に似たのか、ごつごつとした筋っばい体型は、のちに「<u>ご神木</u>」とあだ名をつけられるにいたった。(上巻, p.15)</p> <p>(2) 「<u>坏さん</u>って、<u>ご神木</u>みたいやない？」(上巻, p.87)</p> <p>(3) 彼らは自分達の間で格差があることを知り、嘘を覚え、世の中には傷つけてもいい人がいることを認識した。「おい、<u>ご神木</u>！」(上巻, p.88)</p> <p>(4) 長年「食べなかった」結果、げっそりと痩せ、浅黒い肌は子供らしからぬ荒れ方をしていた。僕は姉が「<u>ご神木</u>」と呼ばれる前から、姉のことを枯れた木みたいだと思っていた。(上巻, p.93)</p>
라이어フォックス (嘘つき狐) / 「分類11: 性格的特徴の見立て」	<p>(1) 姉の言うことには、いつも胡散臭さがあった。</p> <p>(2) そもそも姉は嘘つきだった。人の気を惹くことにかけては命をかけることも辞さない姉だ。</p> <p>(3) 幼稚園ではとうとう、皆から「<u>라이어フォックス (嘘つき狐)</u>」と言われるようになっていた。残酷なあだ名だが、残酷な分、真実だと思う。(以上, 上巻, p.30)</p>
ぶす, ガリガリ / 「分類4: 身体的特徴の指摘」	<p>(中学年になり、高学年になると) 姉をからかう罵詈雑言やあだ名を考えるようになった。頭の足りない男子生徒は、姉のことを「<u>ぶす</u>」と言ったし、意地悪な女子生徒は、姉のことを「<u>ガリガリ</u>」と言った。(上巻, p.87)</p>
ソー・ハッピー / 「分類8: 行動特徴・エピソードの指摘」	<p>(1) 姉は市立中学校3年4組での自己紹介で、あろうことか、日本語と英語を混ぜて話したのだった。「初めまして、今橋貴子です、エジプト、カイロから来ました。皆さんに会えて、ソーハッピー、日本は分からないことだらけだけど・・・」というような具合だ。姉は気負ったのだ。(中略) 久しぶりに見た大量の同じ年の子、姉にとっては無個性に見える同級生に対して、姉は精一杯虚勢を張ったのだった。(上巻, p.267) (中略) 姉はもう一度やり直したかったのだし、忌まわしき日本の思い出に、復讐をしたかったかもしれない。かつて「<u>ご神木</u>」として貶められた者が、今度は本当の「<u>ご神木</u>」のように、崇め奉られることを求めたのだ。確かに「エジプトから来た女の子」は、大きなトピックのひとつだった。(上巻, p.268)</p> <p>(2) 姉は、「<u>ソー・ハッピー</u>」と呼ばれるようになった。もちろん、好意的なあだ名ではなかった。姉は、皆に疎ましがられた。(上巻, p.269)</p>
ご神木 (小説の後半部で) / 「分類11: 性格的特徴の見立て」	<p>すっかり仲良くなったアイザックは、僕をずっと抱きしめてくれた。姉はそうしなかったが、その代わりに、これ以上出来なほど美しく立っていた。まるで地中奥深くから伸びた芯に貫かれているかのように、姉はまっすぐ、立っていた。姉は強い木のような木だった。神様をはらんだ、美しい、木のような木だった。つまり、姉は「<u>ご神木</u>」だった。世界で一番美しい、動ける「<u>ご神木</u>」だった。(下巻, p.353)</p>

注. あだ名の箇所には下線を付加してある。

表4 その他の人たちに付いたあだ名

あだ名	理由
イサク: アイザックという名前	姉の夫。「分類2: 名前の変形」 その人は、アイザックと名乗った。姉は彼のことを、「 <u>イサク</u> 」と呼んでいた。(下巻, p.207)
ドラえもん: カイロでの居住宅の管理人さん	「分類5: 身体的特徴の見立て」 (1) ほとんど球体に見えるぐらい太ったおじいさん。(上巻, p.129) (2) 顔もまんまるで、ドラえもんみたいに見えた。「このフラットのポアーブさんや。ポアーブというのは、管理人さんみたいなもんかな。」(中略)「この人、ドラえもんみたいや。」僕がそう言うと、皆笑った。その瞬間から、このおじいさんの名前は <u>ドラえもん</u> に決まった。(上巻, p.120)
幽霊: 玉城真里菜さん。カイロの日本人学校の同級生	「分類5: 身体的特徴の見立て」 ふと影が出来たので振り向くと、玉城さんが立っていた。玉城さんは、背の高い女の子だった。色が白く、すうっと切れ目を入れたような目をしていて、髪が腰まであって、それを縛ったりしないので、実は僕たちの中では、玉城さんのことを「 <u>幽霊</u> 」と呼んでいた。(上巻, p.187)

注. あだ名の箇所には下線を付加してある。

因を取り除いたが、なおも次々に新しいあだ名が付けられた高僧の話であった。最初は「単なる愛称だったが、人々も意地悪になる」(市古・小田切編『徒然草(上)』p.134) のかもしれないが、同一人物に対して怒りっぽい性格による行動のエピソードごとに周囲の人たちがあだ名を使って人格攻撃した例であった。

本研究の目的2は、このような2ケース「パーソナリティの2面性(坊ちゃん)」「エピソードごとの持続的な人格攻撃(堀池の僧正)」のほかに何か異なる用例が認められるかどうかを明らかにすることであった。

結果として一例が見られた。それは姉に関するあだ名「ご神木」等であった。「ご神木」は、小説の前半において、姉が小学校の中学年、高学年の時に男女問わず人気があった女の子から付けられたあだ名であった。その女の子は、「可愛くて、大人びていて、魅力的、つまり彼女が何か言うごとに、クラスの皆が従うような女の子」(上巻, p.87)であった。クラスの皆も彼女の付けたあだ名に同意し、以後は姉のことを「ご神木」と蔑称的に呼んだ。弟の「僕」も姉のことを枯れた木みたいに思っていた。すなわち、「僕は姉がご神木と呼ばれる前から、姉のことを枯れた木みたいだと思っていた」(上巻, p.93)

小説の後半になると、姉に対するあだ名「ご神木」に対する意味やイメージに変化が生じる。まず、分類5のような命名方略そのものが当てはまらなくなっていた。その記述箇所は次のようである。「姉は女ものの服を着ていた。体にびたりと沿う、シンプルなジャージのワンピースだった。淡い黄色は、日焼けした姉の素肌によく似合った。そう、つまり姉は、すっかり女っぽくなっていたのだ。ご神木と呼ばれていた体には、少し肉がついた。一般の女性からすると、まだまだ細かったが、どこか女性的な丸みがあった。」(下巻, pp.206-207)。

「ぶす」「ガリガリ」といったあだ名は「分類4:身体的特徴の指摘」,「ご神木」は「分類5:身体的特徴の見立て」であるが、上記の記述のようにその身体的特徴が認められない体型になっていた。あだ名の命名の根拠が消失(例えば、大野木, 2001)してしまっていたのである。

しばしば、我々は人物を見ると、最初は外見から捉え、やがてはその人物への内面へと関心を寄せていく。すっかり成人になり、また外国で結婚生活をしてきた姉の外見は、かつての姉の外見とは異なっていた。そこで、弟の「僕」はしだいに姉の内面に関心を寄せていく。次のような箇所がある。「地中奥深くから伸びた芯に貫かれているかのように、姉はまっすぐ、立っていた。姉は強い木のような木であった。神様をはらんだ、美しい、木のような木であった。(中略)世界で一番美しい、動けるご神木であった。(下巻, p.353)」「すっかり仲良くなったアイザックは、僕をずっと抱きしめてくれた。姉はそうしなかったが、その代わりに、これ以上出来ないほど美しく立っていた。まるで地中奥深くから伸びた芯に貫かれているかのように、姉はまっすぐ、立っていた。姉は強い木のような木であった。神様をはらんだ、美しい、木のような木であった。つまり、姉はご神木であった。世界で一番美しい、動けるご神木であった。(下巻, p.353)」

この「ご神木」は、小学生時代の姉のあだ名「ご神木」とは意味が異なる。最初のごつごつと骨っぽい体型が、まさしくご神木に似ていたのであって、内面を表現したものではない。しかしながら、成人期の姉のあだ名の「ご神木」は、姉のパーソナリティが「神様をはらんだ」「ご神木」のようであると見立てている。そして、あだ名「ご神木」のイメージもネガティブなものからポジティブなものへと捉え直しが起こっている。表面的・外見的なネガティブな部分への注目から、内面的なポジティブな部分へのパーソナリティの捉え直しが起こっている。

以上、小学校時代の姉のあだ名「ご神木」は主に外見の類似性による見立て(分類5)であったが、成人期の姉はあだ名の命名方略となった身体的な外見そのものが劇的に変化してあだ名命名の根拠を失った。そして弟の「僕」が、今は該当しない姉のあだ名「ご神木」を認め、あだ名「ご神木」に新しく内面的な別の根拠(分類11)を見出したのである。

この使用例は、『坊ちゃん』における主人公「おれ」へのあだ名のパーソナリティの2面性とは明らかに異なっている。『坊ちゃん』の場合は同時期に異なる2つの世界(学校と自宅)で異なる2種類の人物評価

表5 姉のあだ名に関する年齢的变化

年齢	あだ名	イメージ	周囲からの命名者
幼稚園	ライヤーフォックス (嘘つき狐)	ネガティブ	皆から
小学校中・高学年	ぶす	ネガティブ	頭の足りない男子生徒から
小学校中・高学年	ガリガリ	ネガティブ	意地悪な女子生徒から
小学校中・高学年	ご神木	ネガティブ	人気のある女子生徒から
中学校3年	ソー・ハッピー	ネガティブ	3年4組の学級生徒たちから
結婚後, 成人期	ご神木	ポジティブ	弟から

を受けているアイデンティティの人物であり、『サラバ!』の姉の場合は同一人物が年齢と共に大きく変化したことをあらわす命名方略の用い方である。『徒然草』の「堀池の僧正」のように一貫して同一分類法を使ってエピソードごとに持続的に揶揄・嘲笑する人格攻撃の用例とも異なっている。

議論を戻して、ここで、姉のあだ名に関する記述の年齢的な変化を表5にまとめてみる。「ジョハリの窓」理論 (Luft, 1969) の適用例 (大野木, 2005; 2010; 2013) にならって姉の人間関係を検討すると、これらのあだ名は弟からの「ご神木」以外はすべて自分(姉)も他者も知っている私の領域 (open 領域) の人物評である。すべてのあだ名が周囲の人たちからネガティブな蔑称として使われている。また「ご神木」はあだ名が付けられる前は、他者は知っているが自分(姉)は知らない自己盲点領域 (blind 領域) である。ところが、結婚後の成人期の姉についてのあだ名「ご神木」は、弟が外見的にも内面的にも捉え直しをして再確認したあだ名である。この時期のあだ名「ご神木」は、弟だけから見た、姉にとっての未知領域 (unknown 領域) だったのかもしれないが、いずれにせよネガティブではなくポジティブなイメージになったのである。

結 語

本研究における『サラバ!』の姉のあだ名では、姉の成長に伴って周囲からの評価の表現として次々と異なるあだ名が使われていた。そこでは、外見から内面へと移る人物評価の視点の変化、すなわち同一名のあだ名の新たな捉え直しが見られた。「ジョハリの窓」理論に照らすと、自己盲点 (blind) 領域に関するネガティブなあだ名が続いたが、後には弟によって未知 (unknown) 領域に関するポジティブなあだ名として

の捉え直しがあった。

本研究の目的1では12通りの命名方略カテゴリに修正・付加の必要がないという結果が得られた。目的2では、あだ名を使って当該人物(姉)の節目節目の成長と変化について表現するという「人間的成長」の表現法が見出された。これは『坊ちゃん』の「おれ」、『徒然草』の「堀池の僧正」に加えて3つめの表現例と考えたい。本研究で実施した先の第2のアプローチによるテキスト分析については、これで尽きているわけではないので、今後もさらに追究を重ねることが必要と考えられよう。

〈付記〉

本研究の一部は、「『サラバ!』(西加奈子著)におけるあだ名の命名方略に関する研究」として日本心理学会第79回大会(2015年9月, 名古屋大学)に発表された。

引用文献

- 金子俊子 (1991) 青年期女子の親子・友人関係における心理的距離の研究 青年心理学研究 3, 10-19.
- Luft, J. (1969) *Of human interaction: The Johari Model*. Palo Alto, CA: National Press Books.
- 日本国語大事典第二版編集委員会 (編) (2000) 日本国語大事典 (第二版) 小学館.
- 新村出 (編) (2008) 広辞苑 (第六版) 岩波書店.
- 西加奈子 (2014) サラバ! (上・下巻) 小学館.
- 大野木裕明 (1999) あだ名の研究 (4) 竹取物語と徒然草 日本性格心理学会第8回大会発表論文集 74-75.
- 大野木裕明 (2000) 学校教師のニックネーム 福井大学教育地域科学部紀要 (第IV部) 56, 25-42.
- 大野木裕明 (2001) ニックネームを主題とするマンガ作品の心理学的考察 福井大学教育地域科学部紀要 (第IV部) 57, 25-44.

- 大野木裕明 (2002) あだ名の研究 (6) 夏目漱石『坊ちゃん』の2面性 日本教育心理学会第44回総会発表論文集 139.
- 大野木裕明 (2003) 教師「坊っちゃん」の就職活動と転職 (pp.19-31) 後藤宗理・大野木裕明 (編) フリーター—その心理社会的意味— 現代のエスプリ (No.427) 至文堂.
- 大野木裕明 (2005) 間合い上手—メンタルヘルスの心理学から— NHK ブックス.
- 大野木裕明 (2010) 太宰治「窟取り」の心理学的研究—「ジョハリの窓」による分析と登場人物イメージの把握— 仁愛大学研究紀要 (人間生活学部篇) 2, 97-107.
- 大野木裕明 (2013) 『走れメロス』(太宰治) の登場人物の心理学的把握—SD法によるイメージ測定と「ジョハリの窓」による内容分析— 人間学研究 12, 37-44.
- 大野木裕明 (2015a) 呼称の対人的機能 ナカニシヤ出版.
- 大野木裕明 (2015b) 親子の呼び名にみるコミュニケーションのあり方 教育と医学 6月号, 28-33.
- 小学館ランダムハウス英和大辞典編集委員会 (編) (1975) 小学館ランダムハウス英和大辞典 小学館.
- 時枝誠記・吉田精一 (編) (1982) 角川国語大辞典 角川書店.
- 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明 (監) (1995) 講談社カラー版日本語大辞典 (第2版) 講談社.
- 吉田兼好 (著) / 市古貞次・小田切進 (編) (1986) 徒然草 (上) ほるぷ出版.

